

校長つうしん No.15



2017.1.31

鈴木 恵一

風をうけて

未来を生きるために

冬季休業中いくつかの研修会に参加しました。今回は IT (情報技術) 関連の話が多く、時代の流れや勢いを感じる機会となりました。

◆ クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 (札幌市中央区)

「初音ミク」の会社といったほうが早いでしょうか。代表取締役の伊藤博之氏の講演会では、現在の取り組みや未来へ向けた情報分野の可能性についてのお話でした。私は伊藤氏の考え方や視点のおきどころに大変興味をひかれました。以下に要約します。

「成功は確率だというのが、人の価値観が大きく影響している。きっかけは同じでも価値観によって行動は人それぞれに違って来る。価値観を問い続けると幸運は下りてくる。これをセレンディピティという (serendipity イギリスの作家ホレス・ウォルポールが小説で用いた造語)。何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけること。ふとした偶然をきっかけに閃きを得て幸運をつかみ取る能力のこと。成功とは価値観を問い続けられるかどうかの差だ。価値観とは社会を覆う意識が影響している。だから人口が多い国に必ずしも世界的な企業が多いわけではなく、北欧やカナダなど人口が少なくても成功している世界的企業がある。寛容とか、チャレンジを応援する社会など、起業に適した価値観のある国や地域に世界的企業が生まれる。北海道は異質なものを受け入れる社会であり、チャレンジすることに対してポジティブな雰囲気がある。これは北海道の資産であり可能性だ。」

北海道情報大学客員教授 <http://www.do-johodai.ac.jp/professor/010/>

私たちはよく、運がいいとか悪いとか口にしますが、黙っていても運が向こうから都合よくやってくるわけではありません。目的意識を持ち努力した人が運を引き寄せます。そんなことに気付かされる講演でした。クリプトン・フューチャー・メディアは北海道の企業です。北海道に生まれ育った伊藤さんならではの感性が、世界に通用する会社に成長させたのだと実感できました。

◆ 日本マイクロソフト株式会社 （東京都港区）

誰もが知るマイクロソフトコーポレーションの日本法人です。講演会の講師は、業務執行役員・パブリックセンター統括本部・文教部長の 小野田哲也 氏です。以下に要約します。

<テクノロジーの進化と働き方の変化>

マイクロソフトが長年にわたって開発し続けてきたWindowsは、モバイル（可動型・移動型端末）やクラウド（インターネット上でのデータ保存やサービス利用）を軸にした方向へと大きく舵を切り出している。新しいWindowsの世界観によって、教育のあり方も変わる。Office製品としてのWord、Excel、PowerPointなどはビジネスや学校教育で広く活用されており、もはや特殊技能ではなく基本的なスキルだ。普通教室でタブレットを使いながら学習する環境はますます充実していく。環境整備や普及のためには、セキュリティ対策をはじめ、個別学習支援のサービス提供はもとより、研究プロジェクトにより研究を深めていくことが大切だ。

(1) I o T (Internet of Things)により産業構造が変わる

クラウドに保管されたビッグデータにいつでもアクセスし、シミュレーションやデータ解析などコンピュータのリソースを使う作業が日常的になる。このような社会では、与えられた仕事を正確に行うよりも、データを分析、整理して、新しい領域を創出したり、新しい価値を創り出すような行動がどの仕事にも求められる。また、どの分野にも理数系の人材がこれまで以上に必要になる。

(2) 働き方が変わる

労働者の働き方は、トップダウン（上から下への指示・命令）ではなく、協働型となり、シェア争いからニーズを生み出す方向へ、組織中心から人中心へ、というように、労働環境がどんどん変わっていく。これまでなら、30年で1つのキャリアだったが、これからは40歳までに10種類以上の仕事を体験しているのが当たり前の時代になる。

こうした変化のなかで、次代を担うこれからの若者に求められることは何か。

- ① その場の状況に応じて判断できる能力。
- ② 答えのない課題に対して他者と協力しながら解決していく能力

日本では新しい教育政策として、小学校の段階から「プログラミング教育」が始まります。そのなかでは、プログラミング技術の向上もさることながら、それらの学習を通じて、「思考力」を鍛えること、「課題解決能力」を身に付けることが目標となります。また、右脳と左脳のそれぞれの機能に応じた学習方法を効率よくおこなうことが改めて問われています。

